

ダコニール 1000

ダコニールは株式会社エヌ・ディー・エスバイオテックの登録商標です。

●販売日：トヨタクロロイタフタリ（TFR）-40%6%



重要病害 炭疽病に
高い予防効果、長い残効、芽のバラつきに強い

- 新葉は開葉後 10 日間以上感染の危険にさらされている。
- 三番茶や秋芽、更新園は芽のばらつきが大きい。

POLY 1 主要病害の多くを同時に防除



POLY 2 摘採 10日前まで使える

茶に対する適用範囲と使用方法(抜粋)					
適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
炭疽病、もち病、輪斑病、新梢枯死症(輪斑病による)	700~1000	200~400 L/10a	摘採 10日前	※1回	散布
網もち病、褐色円星病	1000				
黒葉腐病、灰色かび病	700				

*ダコニール 1000 は各茶葉 1 回を使用できます。
(ダコニール 1000 の散布後、次の散布までに操作などが必要です。)

炭疽病・新梢枯死症の同時防除も 700~1000 倍で OK!!

QRコードで
簡単アクセス!
やっせりダコニール!
ダコニール俱楽部

お茶専用の
コーナーがあります

茶の病害の写真や
防除のポイントなどが満載!!

●使用前にラベルよく読みてください。
●ラベルの記述以外には使用しないでください。
●手の手の手のところには運営しないでください。
●茶葉は園場などに散落せず、3 月以降水害時は、適切な処理をしてください。雨水をタックにれてください。

この印刷物の記載内容は 2018 年 6 月末現在のものです。
1521(18-3)JU
2018 年 6 月作成

ダコニール普及会

茶の病害虫とその防除

病害虫防除の考え方

- 遮断防除が最も重要
- 基幹防除を的確に実施
- 特長を活かした薬剤の選択、ローテーション防除が必要
- 翌年産茶の良質・安定生産のため、秋期防除(三番茶不摘採園では三番茶期)を徹底



茶の病害虫の写真や防除のポイントなどが満載!!

病害虫防除に役立つ情報をわかりやすく紹介する情報サイト
ダコニール俱楽部

<http://daco-club.com>



茶園管理のお手伝い

ダコニール 1000

ダコニールは株式会社エヌ・ディー・エスバイオテックの登録商標です。

茶の病害防除で大切なのは 摘採後に残る葉を守ること!

三番茶・摘採する三番茶



- 重要病害は炭疽病。
- 炭疽病は主に新葉の上位 3 枚位に感染し、14~20 日で発病。つまり上位葉は炭疽病に感染しても、発病する前に摘採されてしまうため問題なし。

守るべきは下位1葉

- 防除適期は萌芽期~1葉期。下位葉をしっかりと守るには長い残効性が必要。

ダコニール 1000 の「萌芽期~1葉期散布」が効果的!

摘採しない三番茶・秋芽



- 重要病害は炭疽病、褐色円星病。
- 越冬葉層の充実が翌春の収量・品質に直結。
- 守るべき葉が多く、防除期間も長い。

翌春一番茶のために体系防除が必要

- 褐色円星病は新葉を主体に硬化した成葉にも感染。感染期間が非常に長い。
- 体系 1 回目は残効が長く茶芽のバラつきに強いダコニール 1000 で防除。

お薦めの体系防除!
ダコニール 1000 の「萌芽期~1葉期散布」
+ DMI 剤の「3~4葉期散布」
(+褐色円星病発生園では出開き後~硬化初期に追加散布)

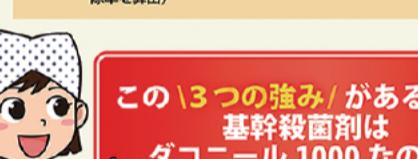


降雨などで
萌芽期~1葉期散布ができなかったときは…

3葉期頃の
「ダコニール 1000 と
DMI 剤の混用散布」が
効果的です。

高い予防効果

炭疽病に対する予防効果と残効の比較 (1)



いずれの芽に対しても高い効果!

散布 10 日後も効果が持続!

■ 茶園茶 (2008 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、A 剤 2000 倍

■ 防除散布日: 試験: 9 月 3 日、試験: 9 月 27 日

■ 炭疽病の接種: 9 月 6 日

■ 新芽生育の調整: 二葉茶を放任し、硬化後から整枝を行い、散布時の新芽が萌芽期、1葉期、2葉期となるよう調整した。

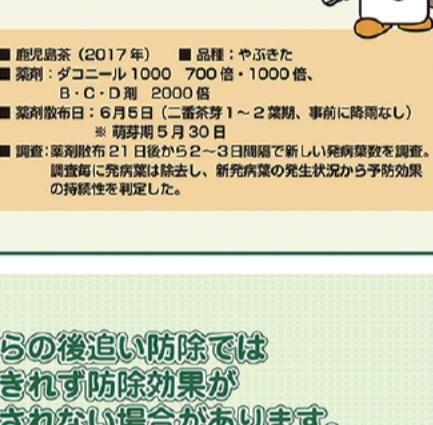
■ 調査: 接種 24 日後及び 31 日後 (2 回の調査結果の合計から防除率を算出)

■ 調査: 7 月 5 日の防除率は薬剤散布 8~9 日後の予防効果 (=残効) を示しています。

長い残効

芽のバラつきに強い

炭疽病に対する予防効果と残効の比較 (2)



炭疽病は感染後 20 日程度で病斑が発生します。

調査時の病斑は以下の時間帯で感染したと推定されます。

●6月28日の病斑...葉面散布 2 日後 (約 2 葉期) の降雨

●6月30日・7月3日の病斑...葉面散布 5~6 日後 (約 3 葉期) の降雨

●7月5日・7月7日の病斑...葉面散布 8~9 日後 (約 4 葉期) の降雨

●7月10日の病斑...葉面散布 15 日後 (約 5 葉期) の降雨

例えば 7 月 5 日の防除率は薬剤散布 8~9 日後の予防効果 (=残効) を示しています。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。

■ 茶見葉 (2017 年) ■ 品種: やぶきた

■ 試験: ダコニール 1000 700 倍、1000 倍、2000 倍

■ 防除散布日: 6 月 6 日 (二葉茶芽 1~2 葉期、事前に降雨なし)

■ 調査: 薬剤散布 21 日後から 2~3 日間隔で新しい病斑発生数を調査。調査時に既存病斑を除去し、新芽発生の状況から予防効果の持続性を判定した。